


【 復活のトロパリ 第1調 】

きゆ うせ え いしゆよ、 イウ デ ヤ の ひ と は か を  
 救 世 主 人 墓  
 ふ うじ て 、 へ い そ つ なんぢ の い さ ぎ よ き み を  
 封 兵 卒 爾 潔 軀  
 ま も る と き 、 なんぢ は み っ か め に ふ く か つ  
 守 時 爾 三 日 目 復 活  
 し て 、 せ か い に い の ち を た ま え り 。  
 世 界 生 命 賜  
 ゆ え に て ん ぐ ん は なんぢ い の ち を ほ ど こ す の  
 故 天 軍 爾 生 命 施  
 し ゆ に よ べ り 、 ハ リ ス ト ス よ 、 こ う え い は  
 主 呼 光 榮  
 なんぢ の ふ く か つ に き し 、 こ お う え い は なんぢ  
 爾 復 活 歸 し 光 榮 爾  
 の く に に き す 、 ひ と り ひ と を い つ く し む  
 國 歸 獨 人 慈  
 し ゆ よ 、 こ う え い は なんぢ の お も ん ぱ か り に  
 主 光 榮 爾 慮  
 き す 。

【 ラドネジの聖セルギイのトロパリ 第4調 】

こ く し ょ う な る わ が し ん ぷ セ ル ギ イ よ 、 なんぢ  
 克 肖 我 神 父 爾



はハリストスカみのまことのぐんしとして、ざんじ  
神真軍士 暫時

のいのちにおいておおいにしょよくにかあ  
生 命 於 大 諸 愆 勝

ち、しょとくをおさめ、きとう、けいせい、  
諸 徳 修 祈 禱 警 醒

きんしょくにおいてなんぢのもんとのためにきはんとな  
禁 食 於 爾 門 徒 爲 規 範 爲

れり。ゆえにしせいしんはなんぢのうちに  
故 至 聖 神 爾 中

いりて、そのこうどうをもってうるわし  
入 其 行 動 以 美

くなんぢをかざりたまえり。もとむ、せい  
爾 飾 給 えり 求 め 聖

さんしゃのまえにいさみをたもつものとして  
三 者 前 勇 毅 有 者

なんぢがちえをもってあつめたるぼくぐんをきお憶  
爾 智 慧 以 集 牧 群 記 憶

くし、やくせしごとおく、わするる  
約 如 忘

なくなんぢのしょしをかえりみたまえ。  
爾 諸 子 眷 給 えり。

【 ラドネジの聖セルギイのコンダク 第8調 】

こう え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 。  
 光 榮 父 子 聖 神 歸 宿

こ く し ょ う し ゃ よ 、 な ん ぢ は ね し ん に ハ リ ス ト ス を あ い し  
 克 肖 者 爾 熱 心 愛

て 、 か わ ら ざ る の ぞ み を も っ て か れ に し た  
 易 望 以 彼 從

が い 、 に く た い の い っ さ い の い つ ら く を に 惡  
 肉 體 一 切 逸 樂 惡

く み て 、 ひ の ご と く な ん ぢ の き ょ う こ く に か が  
 日 如 爾 郷 國 輝

や け り 、 ゆ え に ハ リ ス ト ス も き せ き の お ん し  
 故 奇 蹟 恩 賜

を も っ て な ん ぢ を と ま し た ま え り 。 な ん ぢ の  
 以 爾 富 給 爾

こ う め い な る き お く を と お と む わ れ ら を  
 光 明 記 憶 尊 我 等

き ね ん し て 、 な あ ん ぢ に よ ば し め た ま  
 記 念 爾 呼 給

え 、 し ん ち な る セ ル ギ イ よ 、 よ ろ こ べ 。  
 神 智 慶

【 復活のコンダク 第1調 】

い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン  
 今 何 時 世 世 に 、 ア ミ ン



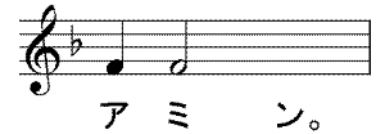
司祭) ( 黙誦： <sup>せい</sup> 聖なる神、<sup>かみ</sup> 聖者の中に<sup>せいじゃ</sup> 息い、<sup>うち</sup> セラフィムより<sup>いこ</sup> 聖三の聲を以て歌頌せられ、  
<sup>せいさん</sup> ヘルヴィムより<sup>こえ</sup> 讚榮せられ、<sup>もつ</sup> 悉くの天軍より<sup>かしょう</sup> 伏拝せられ、<sup>ばんぶつ</sup> 萬物を無より<sup>む</sup> 有と<sup>ゆう</sup>  
<sup>ひと</sup> なし、<sup>なんぢ</sup> 人を<sup>ぞう</sup> 爾の像と<sup>しょう</sup> 肖とに依りて造り、<sup>よ</sup> 爾が<sup>つく</sup> 諸の<sup>なんぢ</sup> 賜を以て之を飾り、<sup>もろもろ</sup> 賜を以て之を飾り、<sup>たまもの</sup> 賜を以て之を飾り、<sup>もつ</sup> 賜を以て之を飾り、<sup>これ</sup> 賜を以て之を飾り、<sup>かざ</sup> 賜を以て之を飾り、  
<sup>ねが</sup> 願う者に<sup>もの</sup> 智慧と<sup>ちえ</sup> 明悟とを<sup>めいご</sup> 與え、<sup>あた</sup> 罪を行<sup>つみ</sup> う者を<sup>おこな</sup> 棄てずして、<sup>もの</sup> 其救の爲に<sup>す</sup> 痛悔  
<sup>た</sup> を立て、<sup>われらいや</sup> 我等卑しくして<sup>ふとう</sup> 不當なる<sup>なんぢ</sup> 爾の諸僕を、<sup>しよぼく</sup> 此の時に於ても、<sup>こ</sup> 爾が<sup>とき</sup> 聖な  
<sup>さいだん</sup> る祭壇の<sup>こうえい</sup> 光榮の<sup>まえ</sup> 前に立ちて、<sup>た</sup> 爾に<sup>なんぢ</sup> 當然の<sup>とうぜん</sup> 伏拝讚榮を<sup>ふくはい</sup> 奉るに<sup>さんえい</sup> 堪うる者<sup>たてまつ</sup> と  
<sup>しゅさい</sup> なしし主宰よ、<sup>なんぢみづか</sup> 爾親ら我等<sup>われら</sup> 罪人の<sup>ざいにん</sup> 口よりも<sup>くち</sup> 聖三の<sup>せいさん</sup> 歌を受け、<sup>うた</sup> 爾の<sup>う</sup> 仁慈を<sup>なんぢ</sup> 受けて、<sup>じんじ</sup> 爾の仁慈を

もつ われら のぞ われら およ じゆう じゆう つみ ゆる わ たましい からだ  
以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が 靈 と 體 と

せい われら しょうがいぜんこう もつ なんぢ つと え せい たま せい  
を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる

しょうしんぢょ こせい なんぢ よろこび な しょうせいじん きとう よ  
生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 )

司祭) けだしわ かみ なんぢ せい われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ  
蓋 我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世  
に、



【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
聖 神 聖 勇 毅 聖  
じょうせいのもものよ、われらをあわれめ  
常 生 者 我 等 憐  
よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい  
聖 神 聖 勇 毅 聖  
なるじょうせいのもものよ、われらをあわれ  
常 生 者 我 等 憐  
めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
聖 神 聖 勇 毅  
せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ  
聖 常 生 者 我 等 憐  
れめよ。こうえいはちちとことせいしん  
光 榮 父 子 聖 神



に き す 、 い ま も い つ も よ よ 世 世 に 、 ア ミ ン 。  
 歸 今 何 時 世 世

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ  
 聖 常 生 の 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う  
 聖 神 聖 勇

き 、 せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を  
 毅 聖 常 生 の 者 我 等

あ わ れ め よ 。  
 憐

司祭) ( 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國  
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、 )

【 **プロキメン** 提綱 主日第1調 及び 克肖者の第7調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ給え、

しゅ よ 、 わ れ ら な ん ち を た の む が ご と く 、  
 主 我 等 爾 頼 如

な ん ち の あ わ れ み を わ れ ら に た れ た ま  
 爾 憐 我 等 垂 給

え 。

誦經) <sup>ぎじん</sup> 義人よ、<sup>しゅ</sup> 主の<sup>ため</sup> 爲に<sup>よろこ</sup> 喜べ、<sup>さんえい</sup> 讚<sup>ぎしや</sup> 榮するは<sup>かな</sup> 義者に<sup>あ</sup> 適う、

しゅ よ 、 わ れ ら なんぢを た の む が ご と く 、  
主 我 等 爾 頼 如  
な んぢの あ わ れ み を わ れ ら に た れ た ま  
爾 憐 我 等 垂 給  
え 。

誦經) <sup>せいじん</sup> 聖人の<sup>し</sup> 死は<sup>しゅ</sup> 主の<sup>め</sup> 目の<sup>まえ</sup> 前に<sup>とうと</sup> 尊し、

せ い じ んの し は しゅの め の ま え に と う と  
聖 人 死 主 目 前 尊  
お し 。

【 <sup>アポストロス</sup> 使徒經 188 端 コリント後書 9 章 6 節～11 節  
213 端 ガラティア書 5 章 22～6 章 2 節 】

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>せいしと</sup> 聖使徒<sup>じん</sup> パヴェルが<sup>たつ</sup> コリント人<sup>しよ</sup> に<sup>よみ</sup> 達する<sup>し</sup> 書<sup>よ</sup> の<sup>よ</sup> 讀、

司祭) <sup>つし</sup> 謹<sup>き</sup> みて<sup>き</sup> 聽くべし、

誦經) <sup>けいてい</sup> 兄弟よ、<sup>とぼ</sup> 乏しく<sup>ま</sup> 稼く<sup>もの</sup> 者は<sup>とぼ</sup> 乏しく<sup>か</sup> 穡り、<sup>ゆたか</sup> 豊に<sup>ま</sup> 稼く<sup>もの</sup> 者は<sup>ゆたか</sup> 豊に<sup>か</sup> 穡らん。人<sup>ひと</sup> 各<sup>お</sup> 其<sup>お</sup> 心<sup>その</sup> の

<sup>ほつ</sup> 欲<sup>ところ</sup> する<sup>したが</sup> 所<sup>う</sup> に<sup>れい</sup> 随<sup>よ</sup> い、<sup>あら</sup> 憂<sup>し</sup> に<sup>な</sup> 由<sup>あら</sup> る<sup>ほどこ</sup> に<sup>け</sup> 非<sup>た</sup> ず、<sup>し</sup> 強<sup>た</sup> いて<sup>た</sup> 爲<sup>た</sup> す<sup>た</sup> に<sup>た</sup> 非<sup>た</sup> ず<sup>た</sup> して<sup>た</sup> 施<sup>た</sup> す<sup>た</sup> べし、<sup>た</sup> 蓋<sup>た</sup> 神<sup>た</sup> は<sup>た</sup> 樂

<sup>あた</sup> みて<sup>もの</sup> 與<sup>あい</sup> う<sup>かつ</sup> る<sup>な</sup> 者<sup>なん</sup> を<sup>ぢら</sup> 愛<sup>しよ</sup> す。且<sup>おん</sup> 神<sup>と</sup> は<sup>よ</sup> 爾<sup>よ</sup> 等<sup>なん</sup> を<sup>ぢら</sup> 諸<sup>ね</sup> 恩<sup>お</sup> に<sup>よ</sup> 富<sup>お</sup> ま<sup>よ</sup> し<sup>ま</sup> め<sup>ん</sup> こと<sup>を</sup> を<sup>た</sup> 能<sup>す</sup>、<sup>た</sup> 爾<sup>た</sup> 等<sup>た</sup> 常<sup>た</sup> に<sup>た</sup> 凡<sup>た</sup> の

<sup>こと</sup> 事<sup>おい</sup> に<sup>た</sup> 於<sup>た</sup> て<sup>た</sup> 足<sup>た</sup> ら<sup>た</sup> ざる<sup>た</sup> なく<sup>た</sup> して、<sup>お</sup> 凡<sup>ぜん</sup> の<sup>じ</sup> 善<sup>な</sup> 事<sup>ゆ</sup> を<sup>た</sup> 爲<sup>か</sup> す<sup>た</sup> に<sup>た</sup> 饒<sup>た</sup> なら<sup>た</sup> ん<sup>た</sup> 爲<sup>た</sup> な<sup>た</sup> り、<sup>た</sup> 録<sup>し</sup> され<sup>し</sup> が<sup>た</sup> 如<sup>た</sup> し、<sup>た</sup> 云<sup>た</sup> く、

<sup>かれ</sup> 彼<sup>さん</sup> は<sup>ひん</sup> 散<sup>じゃ</sup> じて、<sup>ほど</sup> 貧<sup>こ</sup> 者<sup>そ</sup> に<sup>ぎ</sup> 施<sup>よ</sup> せ<sup>よ</sup> り、<sup>そ</sup> 其<sup>よ</sup> 義<sup>よ</sup> は<sup>そ</sup> 世<sup>そ</sup> 世<sup>ん</sup> に<sup>ま</sup> 存<sup>ま</sup> す<sup>た</sup> と。播<sup>ま</sup> く<sup>もの</sup> 者<sup>た</sup> に<sup>た</sup> 種<sup>た</sup> を<sup>た</sup> 與<sup>あ</sup> え、<sup>た</sup> 食<sup>しよ</sup> の<sup>た</sup> 爲<sup>た</sup> に<sup>た</sup> 餅

<sup>そ</sup> を<sup>な</sup> 備<sup>もの</sup> う<sup>ね</sup> る<sup>が</sup> 者<sup>なん</sup> は、<sup>ぢら</sup> 願<sup>ま</sup> わ<sup>た</sup> く<sup>そ</sup> は<sup>か</sup> 爾<sup>つ</sup> 等<sup>ふ</sup> が<sup>や</sup> 播<sup>ま</sup> く<sup>た</sup> 種<sup>な</sup> を<sup>た</sup> 備<sup>ま</sup> え<sup>た</sup> 且<sup>た</sup> 殖<sup>た</sup> し、<sup>た</sup> 又<sup>た</sup> 爾<sup>た</sup> 等<sup>た</sup> の<sup>た</sup> 義<sup>た</sup> の<sup>た</sup> 實<sup>た</sup> を<sup>た</sup> 益<sup>た</sup> さん<sup>た</sup> こと<sup>を</sup> を、

<sup>なん</sup> 爾<sup>ぢら</sup> 等<sup>お</sup> が<sup>よ</sup> 凡<sup>と</sup> の<sup>よ</sup> 事<sup>ひ</sup> に<sup>ろ</sup> 富<sup>ほど</sup> む<sup>こ</sup> に<sup>た</sup> 由<sup>え</sup> り<sup>た</sup> て、<sup>た</sup> 博<sup>た</sup> く<sup>た</sup> 施<sup>た</sup> す<sup>た</sup> を<sup>た</sup> 得<sup>た</sup> ん<sup>た</sup> 爲<sup>た</sup> な<sup>た</sup> り、<sup>た</sup> 此<sup>た</sup> れ<sup>た</sup> 我<sup>た</sup> 等<sup>た</sup> に<sup>た</sup> 由<sup>た</sup> り<sup>た</sup> て<sup>た</sup> 神<sup>た</sup> に<sup>た</sup> 奉<sup>た</sup> る

かんしゃ な  
感謝を作す。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 少ししかまかない者は、少ししか刈り取らず、豊かにまく者は、豊かに刈り取ることになる。各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。神はあなたがたにあらゆる恵みを豊かに与え、あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである。「彼は貧しい人たちに散らして与えた。その義は永遠に続くであろう」と書いてあるとおりにである。種まく人に種と食べるためのパンとを備えて下さるかたは、あなたがたにも種を備え、それをふやし、そしてあなたがたの義の実を増して下さるのである。こうして、あなたがたはすべてのことに豊かになって、惜しみなく施し、その施しはわたしたちの手によって行われ、神に感謝するに至るのである。

\*\*\*\*\*

誦經) 兄弟よ、神の果は仁愛、喜悅、平安、恒忍、仁慈、矜恤、信仰、溫柔、節

制なり。此くの如き者には律法なし。凡そハリストスに屬する者は、肉體を其情及び

慾と共に十字架に釘せり。若し我等神に依りて生きば、亦神に依りて行ふべし。虚榮

を尚び、相怒り、相妒む勿るべし。兄弟よ、若し人過に陥らば、爾等屬神の

者は、溫柔の神を以て、之を規し、且自省みるべし、恐らくは爾も亦誘わ

れん。爾等互に荷を負え、是くの如くしてハリストスの法を盡さん。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。もしわたしたちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか。互にいどみ合い、互にねたみ合って、虚榮に生きてはならない。兄弟たちよ。もしもある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい。互に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。

\*\*\*\*\*

【 アリルイヤ 主日第1調 及び克肖者の第7調 】

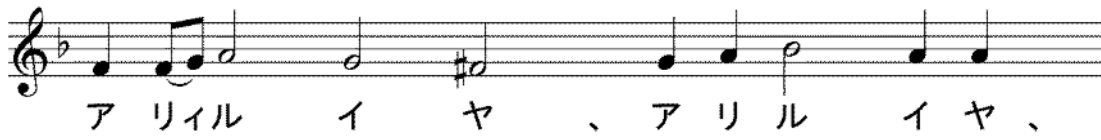
司祭) 爾に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) アリルイヤ、願わくは我が爲に仇を復し、我に諸民を従わしむる神は讚頌せられん、





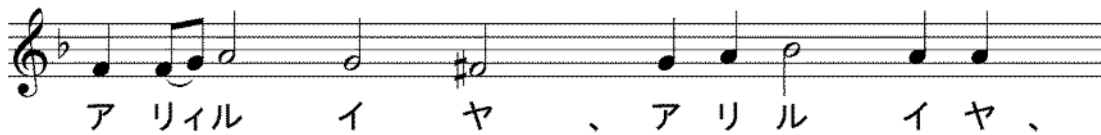
ア リル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、



ア リル イ ヤ 。

誦經) <sup>おお</sup>なる <sup>すく</sup>救を <sup>おう</sup>王に <sup>ほど</sup>施し、 <sup>あわれ</sup>憐を <sup>なん</sup>爾の <sup>あぶ</sup>膏 <sup>もの</sup>つけられし者 <sup>お</sup>ダ <sup>その</sup>ヴィ <sup>よ</sup>ド及 <sup>よ</sup>び <sup>よ</sup>其 <sup>よ</sup>裔に <sup>よ</sup>世 <sup>よ</sup>世に

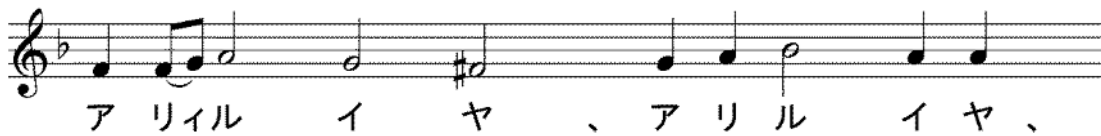
<sup>た</sup>垂 <sup>もの</sup>る者 <sup>われ</sup>よ、 <sup>なん</sup>我 <sup>な</sup>爾 <sup>うた</sup>の名に <sup>わん</sup>歌 <sup>わん</sup>わん、



ア リル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、



誦經) <sup>かみ</sup>神を <sup>お</sup>畏れ、 <sup>その</sup>其 <sup>いま</sup>誠 <sup>ま</sup>を <sup>き</sup>極 <sup>あ</sup>めて <sup>ひ</sup>愛 <sup>さい</sup>する <sup>わい</sup>人は <sup>な</sup>福 <sup>なり</sup>なり、



ア リル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、



司祭) ( 黙誦: <sup>ひと</sup>人を <sup>あい</sup>愛する <sup>しゅ</sup>主 <sup>さい</sup>宰 <sup>わ</sup>よ、 <sup>こ</sup>我が <sup>こ</sup>心 <sup>かみ</sup>に <sup>し</sup>神 <sup>ち</sup>を <sup>え</sup>知 <sup>い</sup>る <sup>ぎ</sup>智 <sup>ぎ</sup>慧 <sup>よ</sup>の <sup>ひ</sup>浄 <sup>か</sup>き <sup>が</sup>光 <sup>かが</sup>を <sup>や</sup>輝 <sup>わ</sup>かし、 <sup>し</sup>我が <sup>ねん</sup>思 <sup>ん</sup>念

<sup>め</sup>の <sup>ひ</sup>目 <sup>ら</sup>を <sup>なん</sup>啓 <sup>ち</sup>きて、 <sup>なん</sup>爾 <sup>ふ</sup>が <sup>いん</sup>福 <sup>お</sup>音 <sup>し</sup>の <sup>え</sup>教 <sup>さ</sup>を <sup>と</sup>悟 <sup>たま</sup>らし <sup>わ</sup>め <sup>う</sup>給 <sup>なん</sup>え、 <sup>ち</sup>我が <sup>ふ</sup>衷 <sup>い</sup>に <sup>ま</sup>爾 <sup>ま</sup>の <sup>ふ</sup>福 <sup>い</sup>たる <sup>ま</sup>誠 <sup>を</sup>を

<sup>お</sup>畏 <sup>お</sup>る <sup>い</sup>る <sup>われ</sup>る <sup>こ</sup>を <sup>と</sup>も <sup>にく</sup>入 <sup>たい</sup>れて、 <sup>よ</sup>我 <sup>ふ</sup>等 <sup>お</sup>が <sup>なん</sup>悉 <sup>よ</sup>く <sup>こ</sup>の <sup>と</sup>肉 <sup>ところ</sup>體 <sup>を</sup>の <sup>を</sup>慾 <sup>を</sup>を <sup>踏</sup>み、 <sup>お</sup>凡 <sup>なん</sup>そ <sup>ち</sup>爾 <sup>よ</sup>の <sup>こ</sup>喜 <sup>ところ</sup>ぶ <sup>を</sup>所

<sup>お</sup>を <sup>か</sup>思 <sup>お</sup>い <sup>お</sup>且 <sup>こ</sup>つ <sup>な</sup>行 <sup>ぞ</sup>い <sup>く</sup>て、 <sup>しん</sup>属 <sup>せい</sup>神 <sup>か</sup>の <sup>す</sup>生 <sup>いた</sup>活 <sup>たま</sup>を <sup>け</sup>過 <sup>だ</sup>ぐる <sup>か</sup>を <sup>か</sup>致 <sup>か</sup>させ <sup>か</sup>給 <sup>か</sup>え、 <sup>か</sup>蓋 <sup>か</sup>ハ <sup>か</sup>リ <sup>か</sup>ス <sup>か</sup>ト <sup>か</sup>ス <sup>か</sup>神 <sup>よ</sup>よ、

<sup>なん</sup>爾 <sup>わ</sup>は <sup>たま</sup>我が <sup>か</sup>靈 <sup>か</sup>と <sup>か</sup>體 <sup>の</sup>と <sup>の</sup>光 <sup>の</sup>照 <sup>なり</sup>なり、 <sup>われ</sup>我 <sup>なん</sup>等 <sup>なん</sup>爾 <sup>ち</sup>と <sup>ち</sup>爾 <sup>し</sup>の <sup>せい</sup>無 <sup>せい</sup>原 <sup>し</sup>の <sup>ぜん</sup>父 <sup>に</sup>と <sup>に</sup>至 <sup>に</sup>聖 <sup>に</sup>至 <sup>に</sup>善 <sup>に</sup>に <sup>し</sup>し

<sup>い</sup>を <sup>の</sup>生 <sup>ほ</sup>命 <sup>ど</sup>を <sup>なん</sup>施 <sup>しん</sup>す <sup>こ</sup>爾 <sup>えい</sup>の <sup>けん</sup>神 <sup>い</sup>と <sup>ま</sup>に <sup>い</sup>光 <sup>いつ</sup>榮 <sup>よ</sup>を <sup>よ</sup>獻 <sup>よ</sup>ず、 <sup>よ</sup>今 <sup>よ</sup>も <sup>よ</sup>何 <sup>よ</sup>時 <sup>よ</sup>も <sup>よ</sup>世 <sup>よ</sup>世 <sup>よ</sup>に、 <sup>よ</sup>ア <sup>よ</sup>ミ <sup>よ</sup>ン。 )

【 <sup>エ</sup>ヴ <sup>ン</sup>ゲ <sup>リ</sup>オン <sup>ン</sup> <sup>ル</sup>カ <sup>福</sup>音 <sup>書</sup> 26 端 6 章 31~36 節

<sup>ル</sup>カ <sup>福</sup>音 <sup>書</sup> 24 端 6 章 17~23 節 】

司祭) <sup>え</sup>睿 <sup>つ</sup>智、 <sup>た</sup>肃 <sup>せい</sup>みて <sup>ふ</sup>く <sup>いん</sup>立 <sup>けい</sup>て <sup>き</sup>聖 <sup>しゅ</sup>福 <sup>じん</sup>音 <sup>へい</sup>經 <sup>あん</sup>を <sup>を</sup>聴 <sup>を</sup>く <sup>べ</sup>し、 <sup>しゅ</sup>衆 <sup>じん</sup>人 <sup>へい</sup>に <sup>あん</sup>平 <sup>あん</sup>安、



司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聴くべし、主曰えり、人の爾等に行わんを欲する事は、爾等も是くの如く

これひと おこな なんぢらも なんぢら あい もの あい なんぢら なん かんしゃ  
之を人に行え。爾等若し爾等を愛する者を愛せば、爾等に何の感謝かあらん、  
けだしざいにんら かれら あい もの あい も なんぢら ぜん おこな もの ぜん おこな なんぢ  
蓋罪人等も彼等を愛する者を愛す。若し爾等に善を行う者に善を行わば、爾  
ら なん かんしゃ けだしざいにんら か ごと こと おこな も かせ のぞみ もの  
等に何の感謝かあらん、蓋罪人等も是くの如き事を行う。若し返さる望ある者に  
か せん なんぢら なん かんしゃ けだしざいにんら すう ごと かせ ため ざいにんら か  
借さば、爾等に何の感謝かあらん、蓋罪人等も數の如く返されん爲に罪人等に借す  
なり。然れども爾等敵を愛し、何を望まずして善を行い、又借し與えよ、則爾  
ら むくい おお なんぢらしじょうしゃ こ な けだしかれ おん そむ ものおよ あ もの  
等の賞は多からん、爾等至上者の子と爲らん、蓋彼は恩に負く者及び悪しき者に  
じあい ほどこ ゆえ なんぢらじれん なんぢら ちち じれん ごと  
慈愛を施す。故に爾等慈憐なること、爾等の父の慈憐なるが如くなれ。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 人々にしてほしいと、あなたがたの望むことを、人々にもそのとおりにせよ。自分を愛してくれる者を愛したからとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、自分を愛してくれる者を愛している。自分によくしてくれる者によくしたとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、それくらいの事はしている。また返してもらつつもりで貸したとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でも、同じだけのものを返してもらおうとして、仲間に貸すのである。しかし、あなたがたは、敵を愛し、人によくしてやり、また何も当てにしないで貸してやれ。そうすれば受ける報いは大きく、あなたがたはいと高き者の子となるであろう。いと高き者は、恩を知らぬ者にも悪人にも、なさけ深いからである。あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ。

\*\*\*\*\*

司祭) 彼の時イイスス彼等と偕に下りて平地に立てり、爰に其衆くの門徒、及び衆くの民、  
イウデヤの四方イエルサリム并にティルとシドンとの海濱よりして、彼に聴かん爲、且

おのれ やまい いや ため きた もの またおき うれ もの かれらいや しゅうみん  
己の病の醫されん爲に來りし者、又汚鬼を患うる者ありき、彼等醫されたり。衆民  
かれ さわ ほつ けだしちからかれ い しゅう いや かれ め あ そのもと  
彼に捫らんと欲せり、蓋能彼より出でて、衆を醫せり。彼は目を擧げて、其門徒を  
み い しん まづ もの さいわい かみ くに なんぢら もの いまう もの  
視て曰えり、神の貧しき者は福なり、神の國は爾等の有なればなり。今飢うる者は  
さいわい なんぢらあ え いまな もの さいわい なんぢらわら え  
福なり、爾等飽くを得んとすればなり。今泣く者は福なり、爾等笑うを得んとす  
ればなり。人の子の爲に人人爾等を憎み、爾等を絶ち、且語り、爾等の名を惡し  
もの す とき なんぢらさいわい そのひ よろこ たのし てん なんぢら むくいおお  
き者として棄つる時は、爾等福なり、其日に喜び樂めよ、天には爾等の賞多  
ければなり、蓋彼等の先祖は是くの如く預言者に行えり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳)そして、イエスは彼らと一緒に山を下って平地に立たれたが、大ぜいの弟子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、ツロとシドンの海岸地方などからの大群衆が、教を聞こうとし、また病気をなおしてもらおうとして、そこにきていた。そして汚れた靈に悩まされている者たちも、いやされた。また群衆はイエスにさわろうと努めた。それは力がイエスの内から出て、みんなの者を次々にいやしたからである。そのとき、イエスは目をあげ、弟子たちを見て言われた、「あなたがた貧しい人たちは、さいわいだ。神の国はあなたがたのものである。あなたがたいま飢えている人たちは、さいわいだ。飽き足りようになるからである。あなたがたいま泣いている人たちは、さいわいだ。笑うようになるからである。人々があなたがたを憎むとき、また人の子のためにあなたがたを排斥し、ののしり、汚名を着せるときは、あなたがたはさいわいだ。その日には喜びおどれ。見よ、天においてあなたがたの受ける報いは大きいのだから。彼らの祖先も、預言者たちに対して同じことをしたのである。

\*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえいは  
主 光 榮 爾 歸 光 榮  
はなんぢにきす。  
爾 歸

※聖体礼儀3 (金ロイオアン) へ